

特定非営利活動法人日本声楽家協会

定 款

特定非営利活動法人日本声楽家協会  
定 款

第 1 章 総 則

( 名 称 )

第 1 条 この法人は、特定非営利活動法人日本声楽家協会という。

( 事務所 )

第 2 条 この法人は、事務所を東京都台東区谷中 5 丁目 2 番 3 号に置く。

( 目 的 )

第 3 条 この法人は、声楽家及び会員相互又は他団体との協力に基づき、不特定かつ多数の幅広い範囲で、国際的活動を含め、声楽に関する研究・育成・普及・交流を図る事業のほか、声楽を通しての情操・社会福祉事業を実施することによって、声楽の振興と文化的福祉国家構築に寄与することを目的とする。

( 特定非営利活動の種類 )

第 4 条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- ( 1 ) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- ( 2 ) 社会教育の増進を図る活動
- ( 3 ) 文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- ( 4 ) 国際協力の活動
- ( 5 ) 子どもの健全育成を図る活動
- ( 6 ) 以上の活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

( 事業の種類 )

第 5 条 この法人は、第 3 条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。

- ( 1 ) 声楽研究基金に関する事業（声楽研究、演習、セミナー等声楽家自主研究事業のための基金）
- ( 2 ) 若手声楽家支援基金に関する事業（緊急時資金支援、奨励金授与等声楽研修事業のための基金）
- ( 3 ) 若手声楽家活動支援に関する事業（演奏活動機会提供、相談室開室、情報提供等の事業）
- ( 4 ) 声楽家育成並びに声楽普及・交流に関する事業（声楽研修、セミナー、合唱交歓会等の事業）
- ( 5 ) 情操・声楽基礎教育に関する事業（幼・少・青年に対する情操鑑賞教室等の事業）
- ( 6 ) 声楽を通しての社会福祉に関する事業（病院慰問やコンサート招待、チャリティコンサート開催等の事業）
- ( 7 ) 国際協力・交流に関する事業（この法人の事業を可能な限り国際的広がりを実施する）

( 8 ) 情報発信に関する事業 ( 機関紙発刊、ホームページによる情報発信等の事業 )

2 この法人は、次のその他の事業を行う。

( 1 ) 雑貨等の物品販売事業

3 前項に掲げる事業は、第 1 項に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、その収益は、第 1 項に掲げる事業に充てるものとする。

## 第 2 章 会 員

( 種 別 )

第 6 条 この法人の会員は、次の 3 種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法 ( 以下「法」という。 ) 上の社員とする。

( 1 ) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体

( 2 ) 個人賛助会員 この法人の目的に賛助して入会した個人

( 3 ) 団体賛助会員 この法人の目的に賛助して入会した団体

( 入 会 )

第 7 条 正会員の入会について、特に条件は定めない。

2 正会員及び個人賛助会員又は団体賛助会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により理事長に申し込むものとする。

3 理事長は、前項の申し込みがあったとき、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

4 理事長は、第 2 項のものの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

( 入会金及び会費 )

第 8 条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

( 会員の資格の喪失 )

第 9 条 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

( 1 ) 退会届の提出をしたとき。

( 2 ) 本人が死亡し、若しくは失そう宣告を受け、又は会員である団体が消滅したとき。

( 3 ) 継続して 2 年以上会費を滞納したとき。

( 4 ) 除名されたとき。

( 退 会 )

第 10 条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

( 除 名 )

第 11 条 会員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを除名することができる。

(1) この定款に違反したとき。

(2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

2 前項の規定により会員を除名しようとする場合は、議決の前に当該会員に弁明の機会を与えなければならない。

( 拋出金品の不返還 )

第 12 条 既に納入した入会金、会費その他の拋出金品は、返還しない。

### 第 3 章 役 員 等

(種別及び定数)

第 13 条 この法人に、次の役員を置く。

(1) 理事 3 人以上 20 人以内

(2) 監事 1 人以上 3 人以内

2 理事のうち 1 人以上 2 人以内を理事長、1 人以上 3 人以内を副理事長とする。

(選任等)

第 14 条 理事及び監事は、総会において選任する。

2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。

3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは三親等以内の親族が 1 人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び三親等以内の親族が役員の総数の 3 分の 1 を超えて含まれることになってはならない。

4 法第 20 条各号のいずれかに該当する者は、この法人の役員になることができない。

5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

(職 務)

第 15 条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び総会又は理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

4 監事は、次に挙げる職務を行う。

(1) 理事の業務執行の状況を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) 前 2 号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

(4) 前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べること。

(任期等)

第 16 条 役員の任期は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠のため、又は増員により就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第 17 条 理事又は監事のうち、その定数の 3 分の 1 を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第 18 条 役員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを解任することができる。

(1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。

(2) 職務上の義務違反その他の役員としてふさわしくない行為があったとき。

2 前項の規定により役員を解任しようとする場合は、議決の前に当該役員に弁明の機会を与なければならない。

(報酬等)

第 19 条 役員は、その総数の 3 分の 1 以下の範囲内で報酬を受けることができる。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前 2 項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(評議員)

第 20 条 この法人には、評議員若干名を置くことができる。

2 評議員は理事会でこれを選出し、理事長がこれを任命する。

3 評議員には、第 16 条および第 18 条を準用する。この場合には、同文中「役員」とあるのを、「評議員」と読み替えるものとする。

(評議員の役割)

第 21 条 評議員は、理事会の諮問に応じ、理事長に対し、必要と認める事項について助言する。

## 第 4 章 会 議

(種別)

第 22 条 この法人は、総会及び理事会の 2 種とする。

2 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

(総会の構成)

第 23 条 総会は、正会員をもって構成する。

(総会の権能)

第 24 条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散及び合併
- (3) 事業計画及び収支予算並びにその変更
- (4) 事業報告及び収支決算
- (5) 役員を選任又は解任、職務及び報酬
- (6) 入会金及び会費の額
- (7) 借入金(その事業年度内の収入をもって償還する短期借入金を除く。第 51 条において同じ。)その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (8) 事務局の組織及び運営
- (9) その他運営に関する重要事項

(総会の開催)

第 25 条 通常総会は、毎年 1 回開催する。

2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め、招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の 2 分の 1 以上から会議の目的を記載した書面により招集の請求があったとき。
- (3) 監事が第 15 条第 4 項第 4 号の規定に基づいて招集するとき。

(総会の招集)

第 26 条 総会は、前条第 2 項第 3 号の場合を除いて、理事長が招集する。

2 理事長は前条第 2 項第 1 号及び第 2 号の規定による請求があったときは、その日から 14 日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集する場合には、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面により、開催の日の少なくとも 5 日前までに通知しなければならない。

(総会の議長)

第 27 条 総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する。

(総会の定足数)

第 28 条 総会は、正会員総数の 2 分の 1 以上の出席がなければ開会することはできない。

(総会の議決)

第 29 条 総会における議決事項は、第 26 条第 3 項の規定によってあらかじめ通知した事項とす

る。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(総会での表決権等)

第 30 条 各正会員の表決権は平等なるものとする。

2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、前 2 条の規定の適用については出席したものとみなす。

4 議会の議決について、特別な利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(総会の議事録)

第 31 条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 正会員総数及び出席者数(書面表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること)

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及び総会において選任された議事録署名人 2 名が、記名押印又は署名しなければならない。

(理事会の構成)

第 32 条 理事会は、理事をもって構成する。

(理事会の権能)

第 33 条 理事会は、この定款に別に定める事項のほか、次の事項を議決する。

(1) 総会に付議すべき事項

(2) 総会の議決した事項の執行に関する事項

(3) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(理事会の開催)

第 34 条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

(1) 理事長が必要と認めたとき。

(2) 理事総数の 5 分の 2 以上から理事会の目的である事項を記載した書面により招集の請求があったとき。

(理事会の招集)

第 35 条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第 2 号の場合にはその日から 1 4 日以内に理事会を招集しなければならない。

3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面により、開催の日の少なくとも 5 日前までに通知しなければならない。

(理事会の議長)

第 36 条 理事会の議長は、理事長がこれにあたる。

(理事会の議決)

第 37 条 理事会における議決事項は、第 35 条第 3 項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(理事会の表決権等)

第 38 条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。

3 前項の規定により表決した理事は、前条及び次条第 1 項の適用については、理事会に出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議決に加わることができない。

(理事会の議事録)

第 39 条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名(書面表決者にあつては、その旨を付記すること。)

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人 2 人以上が記名押印又は署名しなければならない。

## 第 5 章 資 産

(構 成)

第 40 条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

(1) 設立当初の財産目録に記載された資産

(2) 入会金及び会費

(3) 寄付金品

- (4) 財産から生じる収入
- (5) 事業に伴う収入
- (6) その他の収入

(区 分)

第 41 条 この法人の資産は、これを分けて特定非営利活動に係る事業に関する資産、その他の事業に関する資産の 2 種とする。

(管 理)

第 42 条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

## 第 6 章 会 計

(会計の原則)

第 43 条 この法人の会計は、法第 27 条各号に掲げる原則に従って行わなければならない。

(会計区分)

第 44 条 この法人の会計は、これを分けて特定非営利活動に係る事業会計、その他の事業会計の 2 種とする。

(事業年度)

第 45 条 法人の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

(事業計画及び予算)

第 46 条 この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算は、毎事業年度ごとに理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第 47 条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収入支出することができる。

2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(予備費)

第 48 条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

(予算の追加及び更正)

第 49 条 予算成立後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又

は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第 50 条 この法人の事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書等決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(臨機の措置)

第 51 条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

## 第 7 章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第 52 条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の 2 分の 1 以上の多数による議決を経、かつ、法第 25 条第 3 項に規定する軽微な事項を除いて所轄庁の認証を得なければならない。

(解 散)

第 53 条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第 1 号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の 2 分の 1 以上の承諾を得なければならない。

3 第 1 項第 2 号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第 54 条 この法人が解散(合併又は破産による解散を除く。)したときに残存する財産は、総会で決したところへ譲渡するものとする。

(合 併)

第 55 条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の 2 分の 1 以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

## 第 8 章 公告の方法

(公告の方法)

第 56 条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。

## 第 9 章 事務局

(事務局の設置)

第 57 条 この法人に、この法人の事務を処理するため、事務局を設置する。

2 事務局には、事務局長及び必要な職員を置く。

(職員の任免)

第 58 条 事務局長及び職員の任免は、理事長が行う。

(組織及び運営)

第 59 条 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

## 第 10 章 雑則

(細 則)

第 60 条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附 則

1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。

2 この法人の設立当初の役員は、別表のとおりとする。

3 この法人の設立当初の役員の任期は、第 16 条第 1 項の規定にかかわらず、この法人の成立の日から平成 14 年 6 月 30 日までとする。

4 この法人の設立当初の事業年度は、第 45 条の規定にかかわらず、この法人の成立の日から平成 14 年 3 月 31 日までとする。

5 この法人の設立当初の事業計画及び収支予算は、第 46 条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。

6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第 8 条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

( 1 ) 正会員 入会金 10,000 円  
会費 年額 12,000 円

( 2 ) 個人賛助会員 入会金 なし  
会費 年額一口 6,000 円、一口以上

( 3 ) 団体賛助会員 入会金 なし  
会費 年額一口 25,000 円、一口以上

別表 設立当初の役員

役職名	氏名
理事長	橋元雅司
副理事長	渡邊 明
理事	小浜 百子
同	高 丈二
同	實相寺昭雄
同	鈴木寛一
同	澄川喜一
同	関 康雄
同	高・博子
同	瀧 淳
同	多田羅迪夫
同	原田茂生
同	福島哲郎
同	・田茂孝
同	渡邊 滉
監事	高折 續
同	高・大海

附則

この変更された定款は、東京都より変更の認証を受けた平成 19 年 月 日より施行する。